

みんなで守ろう ふるさとの森



アカマツを植える団員

3月3日、小幡小学校緑の少年団による八幡山植樹祭が八幡山公園で開かれました。

生命力の強い松ですが、長い年月の間に厳しい風雪や病害虫により、枯れてしまった木もありました。そこで、ふるさとの変わらぬ風景を後世へと引き継ぎ、未来を創る子どもたちに郷土愛を育んでもらおうと、植樹祭を町と町教育委員会が実施しました。

緑の少年団(4・5年生)65人は、病害虫に強いアカマツの苗80本を2人1組で植え、丁寧に土をかけました。

江川想乃さん(4年)は「松食い虫に負けず大きく育ってほしい。大きくなったらまた見に来たい」と話しました。

佐藤さんの100歳を慶祝

佐藤まさ子さん(大正6年2月25日生まれ・上野)の100歳を祝うため、2月24日、茂原町長が西毛病院(富岡市)を訪問し、慶祝状と祝金を手渡しました。

佐藤さんは富岡市岡本のお生まれで、上野に嫁ぎ、2女に恵まれました。旦那さんを早くに亡くされてからは、女手ひとつで子どもを育て、養蚕と麦を中心に農業に励んできました。

歯が丈夫で自分の歯が8割は残っているという佐藤さんに長寿の秘訣を伺うと「好き嫌いなく何でも食べることと、牛乳を欠かさず飲むこと」と話してくれました。佐藤さんは、足腰が不自由になったこともあり、今年の1月から西毛病院に入院し、穏やかな毎日を過ごされています。



佐藤さん(左)と茂原町長

鉢植えで感じる春

甘楽町鉢植クラブ(森平毅二会長・会員29人)の『早春の鉢植展示会』が2月24日から26日まで、町文化会館で開かれました。

展示ホールには24人の会員が丹精して育てた鉢植えが約70点並びました。梅やボケ、色鮮やかなオレンジ、冬アジサイやスハマソウなどの鉢植えが、来場者に春の訪れを告げました。

森平会長は「展示会に合わせて咲かせるため、風呂場や暖かい部屋に置くなど工夫した作品が並んでいる」と話されました。同クラブでは月に1度実技講習を行い、技術を磨きながら四季折々の鉢植えを楽しんでいます。



丹精した作品が並ぶ鉢植展示会

情 感豊かに のびのびと表現

2月26日、第27回甘楽町ふるさとコンサートが町文化会館で開催されました。昨年の夏休みに町内の小中学生を対象とした童謡作詩コンクールを開催したところ、339点の応募があり、入賞作品の発表と表彰式が行われました。

入選した4人の詩には、かぶらマンドリンクラブ、さくらコーラス、コールオリーブ、グリーンホーンズオーケストラの4団体が曲をつけ発表したほか、各団体の演奏や合唱も披露されました。

入選した斎藤瑠七さん(甘楽中1年)は「いつものクラスのみんなの風景を思い浮かべて作った。入選は驚いたがうれしい」と話してくれました。

また、甘楽中吹奏楽部による特別演奏があり、最後には観客も交え、全員で甘楽中の校歌を歌いました。



入選者は自分の詩がのった歌を舞台上で鑑賞します。
写真は井上くんとコールオリーブ



入選者の皆さん。左より斎藤さん、堀口くん、井上くん

◎童謡作詩コンクール入賞者

入 選	(敬称略・学年は28年度)	
「小ひつじさん」	井上海翔	小幡小2年
「小さなおきゃくさん」	福嶋るい	新屋小3年
「黒いネコ」	堀口花道	甘楽中1年
「私と友達」	斎藤瑠七	甘楽中1年
佳 作		
「入道雲」	久保ミチル	福島小3年
「あさがお」	鈴木愛佳	福島小3年
「太陽」	久保花怜	福島小4年
「童話の国へ行ったなら」	久保ひより	福島小5年
「今日のお空は」	斎藤千暖	福島小5年
「耳を澄ませば」	新井響介	甘楽中1年
「楽山園」	井上美咲	甘楽中1年
「空」	大類百華	甘楽中1年
「はばたく鳥」	久保田凜	甘楽中1年
「遙か想い」	山田真礼	甘楽中1年

アイデアと工夫で団結 揃いのダンスを披露 甘楽中2年生



苦労して覚えた『恋ダンス』をクラス全員で披露する3組

甘楽中学校では、楽しく体を動かしながらリズム感を養おうと、体育の授業でダンスの練習をしてきました。また、1・2年生は2月8日に踊らん会の山田久琴代表にヒップホップ系のダンスの基礎を学びました。

2月21日、練習の成果を披露する2年生によるダンス発表会が同校体育館で行われました。各クラス4～5班に分かれて練習を重ねてきた生徒たちは、振付から衣装、音響まで自分たちで工夫し、アイドルグループやお笑いタレントの流行歌などを完璧に踊り切りました。

加藤堅斗くんは「3クラスともうまくできていた。たくさん練習した結果だと思う」と感想を話しました。

善友会が発足50周年を祝う



3月5日に紅葉山で炭出し作業をした善友会の皆さん

善慶寺地区の有志で構成される善友会(秋本和夫会長・会員約70人)は、長年にわたり紅葉山の草刈りなど整備活動が続け、環境保全に貢献し、数々の賞を受賞してきました。

1月27日、善友会は50周年記念祝賀会を甘楽ふるさと館で開きました。会としての発足は昭和41年ですが、紅葉山の環境保全活動の歴史はさらに古く、秋本会長は「当時大人たちの活動を自然なこととして見てきた会員が奉仕の精神を受け継ぎ、善友会という組織をつくってくれた。ボランティアという言葉がない時代から自然なこととして取り組んできた。日々の生活に奉仕の心が溶け込んでいるこの地区の土地柄は、かつての日本全国の村々の姿だったと思う。この奉仕の精神のバトンを次世代の子どもたちに受け継いでいきたい」と思いを話されました。

善友会では、草刈りのほかにも、紅葉などの苗木の植樹や親子炭焼き教室などを実施しています。

揃いの衣装でいざ出陣

4月2日開催の「城下町小幡さくら祭り武者行列」に、今年もかわいらしい稚児隊が参加します。

3月6日、町公民館で、町内3幼稚園と保育園の年中組園児と保護者が、当日着る衣装作成会に参加しました。参加した約60人は、法被に男児はズボン、女児はスカートを合わせる格好の衣装に、織田家の家紋形シールや自分好みにカットしたカラフルなシールを貼りつけました。

完成した衣装を着た園児たちを見て、「かっこいい!」「かわいい!」などの声が飛び交い、園児たちも武者行列の参加を楽しみにしていました。



完成した衣装を着る園児

県大会準優勝!! あすなろJr

2月26日から3月5日までの2日間、第35回群馬県小学生バレーボール新人大会が浜川体育館(高崎市)ほかで行われ、あすなろジュニア(池田多春監督)が準優勝しました。

1回戦から準決勝戦まで1セットも落とさず勝ち進んだあすなろジュニアでしたが、決勝戦で八幡フレッシュに惜敗し、優勝にあと一手手が届きませんでした。篠原歩花主将は「優勝を目指していたので、とても悔しいです。この悔しさを忘れずに、また感謝の気持ちを忘れずにこれからも頑張ります」と話していました。

あすなろジュニアは3月26日、駒沢体育館(東京都)で開催された1都6県の代表が対戦する2017東京都小学生バレーボール連盟近県交流大会に群馬県代表として出場し、健闘しました。



県大会準優勝のあすなろジュニア

【部員募集】 あすなろジュニアでは部員を募集しています。バレーボールを一緒に楽しめる友だちの見学・体験をお待ちしています。詳しくは、会長三木までお電話ください。☎090-8819-3650

見 つめなおそう家庭の力

第10回かんら家庭の日推進大会(町青少年育成推進員連絡協議会・町教育委員会主催)が3月5日、町文化会館で開かれました。これは、生活の基盤であり家族の心のよりどころでもある「家庭」の大切さ、「家庭」の役割のすばらしさをあらためて考えようと実施するものです。

町内小中学生を対象とした家庭の日の標語・作文のコンクールでは、標語70点、作文43点の応募があり、最優秀賞と優秀賞の表彰式が行われました。

また、アトラクションとして踊らん会エアロビックclubとかんら太鼓「子楽鼓」の皆さんによる演技や演奏が披露されたほか、抽選会も行われました。



表彰式に出席した最優秀賞受賞者
(左から山田さん、掛川さん、中野さん)

◎「家庭の日」標語・作文コンクール最優秀賞者 (学年は28年度・敬称略)

標語	「ねえ、聞いて」話して広がる 家族の輪	武田夏帆	福島小6年
	「あたたかい 家族のぬくもり ほっとする」	山田千聖	甘楽中1年
作文	「大切な言葉」	掛川涼羽	福島小6年
	「家族の笑顔」	中野 優	甘楽中2年

か わい子ひつじが誕生

甘楽ふるさと農園(上野)のひつじ公園では、2月中旬から子ひつじが誕生しています。現在は3匹(雄2匹と雌1匹)の子ひつじが母ひつじと一緒に飼育小屋の中で飼われ、愛くるしい姿で迎えてくれています。

ひつじ公園では現在、23匹のひつじたちが農園利用者や来園者を楽しませてくれています。

甘楽ふるさと農園では、農園の利用者を募集しています。問合せはふるさと農園(☎74・7428)までお願いします。



黛さん(右)と高橋刑事部長

詐 欺被害防止に尽力し表彰

黛 哲夫さん(秋畑)が群馬県警察本部刑事部長賞を受賞し、3月9日、秋畑出身の高橋千明刑事部長が黛さん宅を訪問し、感謝状を授与しました。

黛さんは、3月2日に町文化会館で、甘楽郡内の老人クラブ会長などを一堂に集め、詐欺被害にあわないための研修会を県内で初めて実施しました。今回の受賞は、黛さんが振り込め詐欺などの特殊詐欺の抑止と検挙対策の重要性の啓発活動に尽力された功績が認められたことによるものです。黛さんには今後とも詐欺被害防止啓発のリーダーとして活躍が期待されます。

9 年間皆勤おめでとう！



全員旧一中生。左から横尾くん、水谷さん、清水くん、黒澤さん、宮代くん

甘楽中学校卒業という旅立ちを前に、卒業生を代表して、小学校・中学校を通じた9年間皆勤者の5人に話を聞きました。

皆勤の秘訣を尋ねると「休むと勉強と部活ができないのが嫌で、手洗いうがいに気を配った」と卓球部の横尾陽輝くん、「平日・休日とも睡眠時間をたくさんとった」水谷夏穂さんと「好き嫌いなく栄養のある食事をとった」という清水智哉くんはともにソフトテニス部、陸上部の黒澤柚菜さんは「朝食を必ず食べ、走って体力をつけた」、「早寝早起きで規則正しい生活を心掛けた」のは吹奏楽部の宮代怜明くん。5人とも高校に行っても皆勤を目指す笑顔で話してくれました。

また、中学校3年間の皆勤者は60人でした。

一・二中の伝統を受け継ぎ 2人の生徒会長が答辞



答辞を述べる堀地くん(左)と小澤くん

3月13日、甘楽中学校で第1期生130人の初めての卒業式が行われました。

甘楽中開校後は、旧一中と旧二中それぞれの生徒会役員が協力し合い、生徒会活動に取り組んできました。式では卒業生を代表して、小澤蓮晟くん(旧一中)と堀地翔太くん(旧二中)の2人の生徒会長が「これからそれぞれの進路に向けて、新たなスタートを切ります。この先、どんな壁が立ちかは分かりませんが、諦めることなく、感謝の気持ちを忘れずに、一步一步前へ進みます」と力強く決意を述べました。

卒業生は式終了後、在校生に見送られ、別れを惜しみながら学びやを後にしました。(表紙ページ)

認知症を学んで 地域で見守り

これから更に進んでいく高齢化社会では、認知症患者が増えることが予想されます。町では、できるだけ若い段階から多くの人に認知症について正しい知識を持ってもらい、支え合いの輪を広げるため、3月17日、甘楽中学校で2年生を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催しました。

認知症のひとと家族の会群馬県支部副代表の島村まつ代さんを講師に迎え、「認知症を知ろう」と題して、認知症患者にみられる症状や接し方、介護する家族の大変さなどについて、お話しをしていただきました。

吉田 凜さんは「認知症という言葉は知っていたが、詳しく分かっていなかったのが、大変勉強になった。これから役立てたい」とお礼の言葉を述べました。



生徒に認知症のひととの接し方について尋ねる島村さん